横浜市立 軽井沢中学校　　令和4年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします。

〇様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます。
〇持続可能な社会の実現をめざし、しなやかに生きる力を育てます。

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
・状況を理解し、判断する力 ・課題を解決する力 ・人とつながり社会を創る力	・想像力 ・主体性 ・コミュニケーション力

中期取組目標

〇職員の組織力を高め、生徒が主体となる活動を充実させる中で、活力と魅力にあふれる学校づくりを推進します。
・授業力の改善に努め、見通しをもって計画的に課題を解決する力を育てます。
・個に応じた支援の充実を図り、互いを認め合える力を育てます。
・様々な人と関わる経験の中で多様な他者の考えや立場を理解し、他と協働する力を育てます。
・保護者や地域との連携に努め、社会の一員としてよりよく生きようとする生徒を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
授業改善		①授業で身につけさせたい力を明確にし、生徒たちが主体的・計画的に学習に取り組めるような授業改善に取り組む。 ②指導方法や指導体制の工夫改善を図り、それぞれの学力層に応じた指導の充実を目指す。
担当	学習指導部	

学力向上に関わる本校の状況

・全体的に高い学力であるが、人数が少ない分AB層とCD層の差が少ない。
・学力層が高い生徒が、その教科好きだと答える割合が横浜市全体より低い。例えば中学2年生の数学では、学力層Aでも「好き」は35%(横浜市は55%)

今年度の目標

・ICTを活用した授業実践
・評価と指導の一体化を目指した授業改善

目標を実現するための具体的行動プラン

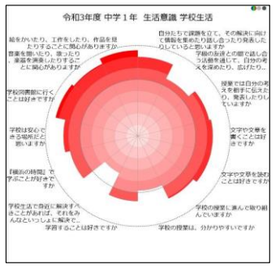
上半期	・授業の中でICTなどを活用し、生徒の興味・関心を高め、主体性を引き出す授業を行う。 ・指導と評価の一体化を図る中で、生徒の実態を把握し、それぞれの学力層に応じた手立てを考え、授業改善に生かす。
下半期	・授業研修月間や研修会を通して、自身の指導と評価について客観的に見直し、学年末の評価に生かす。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
道徳教育・人権教育		①学校教育全体で道徳教育・人権教育を充実させる。 ②他の人の考えや気持ちを想像したり、共感的に理解したりする力を育む。 ③「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」や人権作文の全校での取り組みを通して、身近な人権問題について考えさせる。
担当	道徳・人権	

豊かな心に関わる本校の状況

・みんなで課題を解決する経験が少なかったため自信が持てない。
・自分の考えを相手に伝えることに苦手意識をもつ生徒が多い。



今年度の目標

・人とのつながりの中で、自分や他者の考えや思いを「伝える」「受けとめる」「想像する」活動を大切にする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	・道徳科を要として、平和学習・人権学習に取り組む。 ・地域理解学習(東北地方や沖縄)を通して、命の尊さを学ぶ。 ・地域理解学習を通して、人とのつながりや、社会を創る力を育む。
下半期	・行事への取り組みを通して、仲間と協力することや課題を解決する力を育てる。 ・人権作文発表会を通して、社会における様々な課題を自分のこととして想像する力や、課題解決のために自分ができることは何か、考える力を育てる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野		具体的取組
健康教育		①誰もが楽しみながら運動に参加できるよう保健体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や集会を生徒が主体になって運営できるようにする。 ②日常生活の中で心身の健康に配慮できるよう、学校保健委員会や保健だよりなどを通して発信する。 ③保健体育科や家庭科などの授業・食育を通して、健康な体つくりを意識させる。
担当	保健安全・保健体育科	

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる生徒の実態
・多くの生徒が食生活や睡眠の大切さについて理解し、基本的な生活習慣がおおむね身についている。
・自分自身の健康状態に興味・関心があり、特に歯みがきの習慣などむし歯予防への関心が高く、う歯率が低い。
・感染症対策として、手洗いや消毒、換気などを実践している姿が見られ、毎日の健康観察もきちんと取り組めている生徒が多い。

(2)これまでの学校の取組状況
・保健体育科では、仲間との関わりを大切にしながら、新体力テストの結果をもとに各自の体力向上に向けた授業作りを実施してきた。
・昼休みに、体育館と武道場を開放し、体を動かす機会を多くしている。
・体育祭や球技大会など、実行委員が中心となって運営してきた。

今年度の目標

心身共に健康でいるための自己管理能力を養う

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	・生徒の生活習慣や心の状態に関する実態を把握し、学校保健委員会や保健だより等において、心身の健康の保持増進に関する取り組みを行う。 ・保健体育科の授業を通して、運動が「できる」「できない」に関わらず、楽しみながら自分の成長を実感できるように、多様な学びの場を設定する。 ・体育祭を通して、仲間と運動することの楽しさを実感できるように、体育祭実行委員会を中心に競技練習を重ね、全校生徒が楽しく運動できる機会をつくる。
下半期	・感染症が流行しやすい季節になるため、保健委員会では基本的な感染症対策の徹底や免疫力を高めることなどを促し、健康と環境を意識した活動を目指す。 ・保健体育科の授業を通して、仲間と運動する楽しさを実感できるように、「チームが勝つためにはどうすればいいか」や「チームメイト一人ひとりの強みを活かすためにはどうすればいいか」など、ルールや作戦を工夫し、仲間と運動に親しむ態度を育成する。 ・球技大会を通して、仲間と運動することの楽しさを実感できるように、球技大会実行委員会を中心に、種目やルールを工夫し、全員が楽しく運動できる機会をつくる。